

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	丸亀市立城東小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	28
児童数	105	97	111	105	84	107	4	613	

研究の概要

1. 研究主題

笑顔・かがやくわたしの育み	～わかる喜びとひびき合う心と～
---------------	-----------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年～4年	算数	子どもの理解度に差がしやすい教科である。
5年と6年	国語	「表現力」において個人差が大きい教科・学年である。

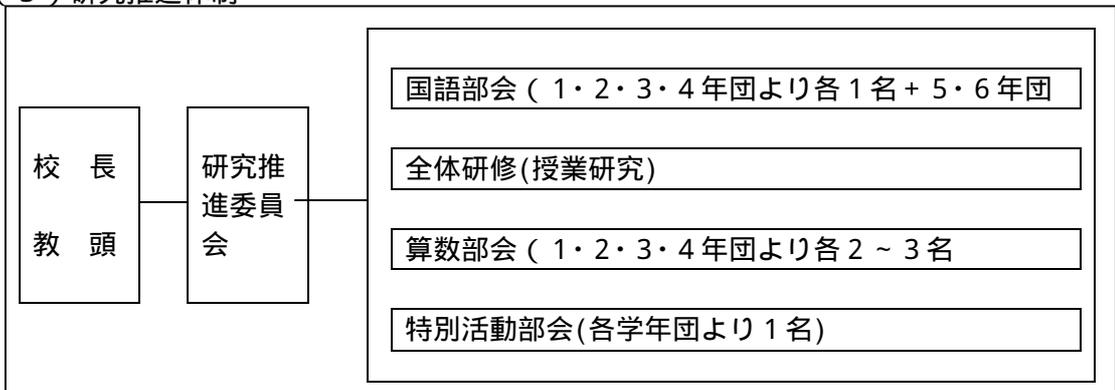
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力の基礎となる力を児童が確実に身につけ、わかる喜びや楽しさを感じることができるようにするための少人数指導の工夫</p> <p>研究仮説</p> <p>確かな学力を身につけるために、ことばを大切に話し合いを取り入れ、個に応じた学習の工夫をしていくことで、ひびき合う心をもった「笑顔・かがやくわたし」を育成することができるだろう。</p> <p>研究内容</p> <p>「ことば」を育てることは、「人」を育て、心を育てるのだという視点から研究を進める。「ことば」の力をつけることを基盤に確かな学力をつけていく。</p> <p>本校の考える学力とは</p> <p>「かかわり合う心」…共感 気づき 感動 思いやり 等</p> <p>「かかわり合う力」…表現する 調べる まとめる 話し合う 等</p> <p>「学ぶ力」……………課題を見つける 計画を立てる 粘り強く取組む等</p> <p>発達段階に応じた系統表を作成し指針としている。また学習状況調査の結果より表現力育成に向けて特にかかわり合う力をつけることを目標に研究を進める。</p> <p>国語科の基礎的な学力と心を育てる国語科学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つけたい力を明確にした年間計画の作成 ・ 個に対応するため、表現することにおける習熟度別学習の実施(補充・発展学習の開発) ・ いきいきタイムの充実(話すこと・話し合うことのスキル) ・ ポートフォリオによる評価の工夫 ・ 家庭学習との連携(音読・漢字) <p>算数の基礎的な学力を育てる算数科学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「数と計算」「量と測定」における習熟度別学習の実施(補充・発展学習の開発) ・ 個に応じたドリル学習の実施
--------	---

	<p>ことばに親しむための集会活動</p> <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語部会・算数部会・特別活動部会の3部会に分かれ、授業研究、教材研究をするとともに教育課程全体でのことばの力育成に向けて研究を進める。 ・ 評価規準・基準ともに、実践する中で適宜修正していく。
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力の基礎となる力を児童が確実に身につけ、わかる喜びやその楽しさを感じることができるようにするための、少人数指導のさらなる工夫と日常化</p> <p>研究仮説</p> <p>ことばを大切にしたい話し合いを充実させ、個に応じた学習の場の工夫や見直しをしていくことで、確かな学力を身につけた「笑顔・かがやくわたし」が育成できるであろう。</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科(基礎的知識・技能)、国語科(短作文・漢字)におけるステップアップ学習と家庭学習との連携 ・ 算数科、国語科ともに個に応じるための教材開発と学習形態の工夫 ・ 「学ぶ力」の育成に重点を置いた学習活動の充実(自学する力の育成に向けて) <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語部会・算数部会・評価部会・基礎部会の4部会を組織し、研究を進めていく。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 「話し合うこと」を学習活動の中心として

かわり合う力(=コミュニケーション能力)育成のためには、現実生活から離れた練習だけでは生きて働く力として育てることにはならない。人前で話すことの経験を積むとともに、音読など日常的に取り入れることが必要になってくる。また、各教科の時間に友だちの考えにふれたり、自分の考えを語ったりする話し合いの時間を学習の中に組み入れて継続して指導していくことが大切であると考えている。そこで、どの学習にも下記のような基本的な流れ、話し合いの形態を取り入れている。

学習の基本的な流れ

発達段階に応じた話し合いの形態

つかむ	学習課題をつかむ・意欲を持たせる支援
むかう 高める	一人学びの時間・・個に応じた支援 話し合いの時間 ・・ねらいを達成させるための支援
振り返る	自己評価・・・・次時へ生かす支援

低学年・・・2～3人
対話を中心に
中学年・・・小集団から全体へ
高学年・・・多様な形態で

(2) 国語科における研究から

高学年ともなると、書くこと、話すことに対する意欲は個人差が大きい。特に、国語はいやだなあと感じている子どもの多くは、表現することだけでなく読むことにも苦手意識を持っている。文章の内容の把握に時間がかかるため発言の機会を逸してしまう。それが積み重なり話すことに大きな抵抗を感じている。この子どもたちが発言や話し合いができないのは、「子どもたちが発言すべき内容をもっていない。または、持っている言葉に置き換えられない」「どこでどのように発言して良いかわからない」「発言、話し合いの絶対量が少ない」の3点が問題であると考えた。

そこで「書く活動を取り入れることで話す内容を持たせる」「発言の型を提示しどこでどのように発言したらよいかを体験させる」「体験を重ねることで恥ずかしいという心理的バリアを越えさせる」ことが必要だと考えた。また、読んだり、書いたり、話したりすることが得意な児童には、多くの情報の取材、選材をさせたり、より効果的な表現の仕方を体得させたいと考え習熟度別学習に取り組んだ。

発展的・補足的な学習を取り入れた授業実践事例

6年国語 「未来について討論しよう」

単元について

本単元では、「百年前の二十世紀」から筆者の考えを読みとり、様々な方法で分野別に未来予測をし、パネルディスカッションを行う。事実や資料をつかって説明したり、論を組み立て話したりすることが求められる。

指導形態

クラス全体

コース選択

コース別学習・学年3コース・4人の教師

クラス全体

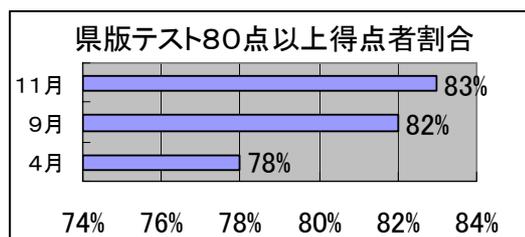
コース別学習の主な流れ(話すことの指導に習熟度を合わせて) 基礎コースは略

発展的学習(バリバリ話しますコース)	補足的学習(お話名人になりますコース)
パネルディスカッションの方法を知り、分野ごとの未来を予測する。 予測した未来ごとの根拠となる資料を探したり、取材したりし立論する。 パネルディスカッションのための作戦会議をする。 第1回パネルディスカッションをする。 第1回パネルディスカッションをビデオを見て振り返る。 第2回パネルディスカッションへ向けて予測した未来根拠となる資料を探したり、取材したりし立論する。 作戦会議をする。 第2回パネルディスカッションのための作戦会議をする。 第2回パネルディスカッションをする。 (50年後のお年寄り事情・・・) 第3回パネルディスカッションのための作戦会議をする。(パネラー フロアをチェンジして) 第3回パネルディスカッションをする。	すらすら音読をする。 ミニミニディベートのロールプレイをする。 ミニディベート(2対2)をする。 すらすら音読をする。 ミニディベート(2対2)をする。 すらすら音読をする。 ミニディベート(1対1)をする。 (品物ディベート) すらすら音読をする。第1回パネルディベートに向けての作戦会議をする。 すらすら音読をする。第1回パネルディベートをする。 すらすら音読をする。第2回パネルディベートに向けての作戦会議をする。 すらすら音読をする。第2回パネルディベートをする。 第1回パネルディスカッションをする。

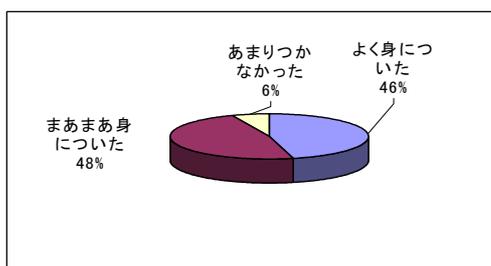
成果と課題

話し合いという人間関係が重要な要素を持つ言語活動だけにクラスの枠を取りしでの習熟度別学習は、不安もあった。が、このコース別学習が自分のためになったと

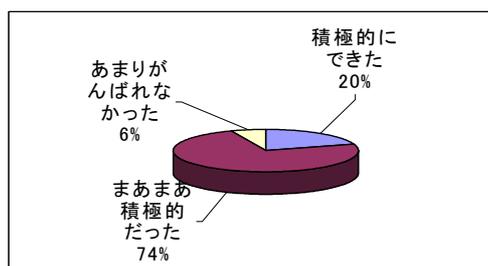
感じている子どもが多くいた。このことは、話すこと・聞くことの言語活動に習熟度別学習を取り入れることに意義があると思われる。話し合い活動は、論題が大きな力を発揮する。伝えたくて伝える、聞きたくて聞くという場面設定が教師の側に必要になってくる。また、活発な話し合いに目を奪われることなく、子どもたちが真剣に話し合う姿から、どの子にどんな力がついて、どんな力がまだ弱いのかを見極める目を持たなくてはならない。国語科の年間を通して、また、他教科、他領域でも、主体的に聞いたり話したりする体験を多く持つことが大切である。



【本単元は11月実施】



コース別学習で話す力がついた



コース別学習への意欲

自分でできる自分の評価・・・ポートフォリオ

単元末には国語新聞という形で「学習のまとめ」を書かせている。自分が学んだこと、学び方などを振り返り再構成させる。この新聞づくりのねらいは、いろいろな表現方法に慣れること、書くことを楽しんで続けられることである。この作り上げた新聞を学期ごとに振り返る時間を持つ。こうして自分の成長に気づき次の目標を設定できるようになればと考えている。自己評価し、学習をデザインできる子どもが育つことを期待している。

いきいきタイムの充実

毎朝、8:25～8:40の時間をスピーチと読書の時間に当てている。基本的なコミュニケーションの力を身につけ楽しく技能をみがく場としている。基本話型や聞き取りカードなどを使い個々の力を伸ばすことに努めている。

音読の重視

全学年、「国語の授業は音読に始まる」を合い言葉に、すらすら音読を実施している。家庭とも音読カードで連携をとりながら続けている。単元の終わり頃には、暗誦できる子どもも増えている。

漢字月末テストの実施

毎月末には、新出漢字を主に、25問の漢字テストを実施している。点数の変化は、少しではあるが毎月の漢字テストにかかる勉強時間は確実に増えている。今後に期待したい。

(3) 算数科における研究から

数学的な考え方の基となるものは、基礎的な知識と技能である。そこで、児童一人一人に、数量や図形の意味理解と基礎的な技能の習熟を図るため、主に「数と計算」または「量と測定」の領域において習熟度別学習を実施している。児童が主体的に算数的活動に取り組み、「活動の楽しさ」や「数学的処理のよさ」が実感できるように教材開発や指導の工夫に努めている。

発展的・補足的な学習を取り入れた授業実践事例

4年算数 「三角形と角のひみつをさぐる」
 単元について

角は、図形の構成要素の一つであるが、辺と比べると、概念的にも量感的にも捉えにくい。また分度器の操作は初めてのため、技能習熟の個人差が大きくなると思われる。そこで、三角形と角を関連づけて学習を進め、分度器の操作に関する時間は習熟度別学習で行うこととした。

指導形態

1クラスを担当 + 少人数担当の2コースに

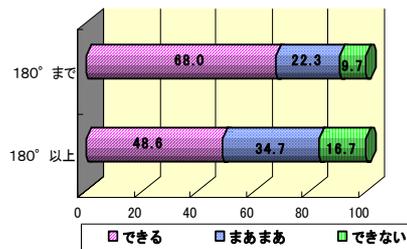
学習の主な流れ

学習内容・時間数	等質グループ	
三角形 角の基本(定義、測り方、かき方) 【8時間】	・角の概念 三角形の角あてゲーム ・分度器の使い方 動画による分度器の使い方 ・角の量感 扇, 2色の円板, 角の部屋	
	補足的学習コース	基礎的・発展的学習コース
分度器の習熟 【3時間】	・前時の復習を必ずする ・視覚的資料, 教具の活用 角の測り方, かき方を揭示 2色の円板, 角の部屋	・自力解決, 話し合いの重視 ・具体的な図から数字や言葉による抽象化 ・問題作り(図形, 三角定規の組み合わせ)
三角定規の角 敷き詰め 模様作り 【3時間】	・操作活動の重視 全円分度器, 板書用分度器 ゲーム化や作品作り	・複雑な図形の作図 ・運動場での角作り

成果と課題

- ・ 三角形と角で関連を図りながら精選したので、分度器の技能習熟の時間を設けることができた。
- ・ 180°までの角の測定・作図に重点を置いたので、かなり正確にできるようになった。
- ・ 180°以上の角についても時間を十分に取る必要がある。
- ・ 扇や2色の円板は、回転角としてのイメージをもたせるのに有効であった。
- ・ 途中のコース変更を可としたため、1時間ごとの学習内容をそろえる必要があった。習熟度別で途中のコース変更については学習内容や時間を考えて工夫する必要がある。

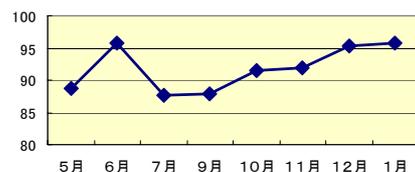
角の測定・作図についての意識調査



個に応じたドリル学習の実施

計算練習問題やゲーム的問題, 発展的問題などを用意し, プリントは少人数教室と学年前廊下に置いている。授業後半や単元末のドリル学習の時に, 児童が選んで繰り返し練習に取り組むようにしている。いつでもとれるようにしているので, 休み時間や家庭学習とする児童もいる。定期的に計算テストを行い定着を図る。

3年ミニテスト



(4) ことばと心を育てる国語学習の場

図書館経営

教科書での学習が終わったらそれで学習が終了という考え方ではなく、発展や派生を積極的に取り入れている。学習に関連して教室に持ち込まれた様々な資料や本をみんなで読んだり、読書集会をしたり、読書のアニメーションも取り入れたりしながら本に親しむ場をつくっている。

集会活動等

意見発表の場、土器っ子どもときどき5・7・5の募集、人権集会での作詞リレーなど、ことばに親しみ、ことばで遊ぶ場も設定している。

2. 今後の課題

- ・ 国語科の少人数授業を5・6年で継続し、読む・話す・書くの学習活動を徹底的に取り入れる。
- ・ 算数科の少人数授業では、習熟度別学習単元を積極的に取り入れて、特に学びあいの時間をしっかりと取る。
- ・ 漢字や計算のスキルアップ学習を全校的な体制で組織していく。
- ・ 朝の活動やゆとりの時間また総合的な学習の時間と国語科で培った言語運用能力が結びつくような教育活動を取り入れ、生きた学力に高めていく。

学力等把握のための学校としての取組

香川県学習状況調査(年1回)
県版テスト(国語年間12枚、算数年間9枚)
漢字テスト、計算テスト(月1回)
児童・保護者への少人数指導についてのアンケート(年2回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力向上フロンティア事業中讃地区協議会
フロンティアスクール中間発表会
HP学力向上フロンティアスクール実践研究の概要、指導案掲載
(<http://www.marugame-joto-e.ed.jp>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
	【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無